みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 12No. 3; Cover, Contents,and others

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009219

1987——12巻3号

国立民族学博物館研究報告

●

東南アジアの焼畑における陸稲化現象
——その実態と類型——佐々木高明

アーネムランド・アボリジニ，ジナン族の狩猟と食物規制——松山利夫

械闘と村落連合
——香港新界中西部5郷の事例より——瀬川昌久

異文化環境におけるムスリム
——カナダにおけるアラブムスリム社会の形成——片倉もとこ

ピーボディー科学アカデミーの成立
——モース研究の一環として——守屋　毅

魚醤の化学分析と「うま味」の文化圏
——魚の発酵製品の研究（6）——水谷忠士，君塚明光，ケネス・ラドル，石毛直道

国立民族学博物館　〒565　大阪府吹田市千里　万博公園　TEL．06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

12巻 3号　　1987年

目　次

東南アジアの焼畑における陸稲化現象
——その実態と類型——　……佐々木高明……559

アーネムランド・アボリジニ，ジナン族の狩猟と食物規制　……松山利夫……613

械闘と村落連合
——香港新界中西部5郷の事例より——　……瀬川昌久……647

異文化環境におけるムスリム
——カナダにおけるアラブムスリム社会の形成——　……片倉もとこ……681

ピーボディー科学アカデミーの成立
——モース研究の一環として——　……守屋　毅……727

魚醤の化学分析と「うま味」の文化圏
——魚の発酵製品の研究 (6)——　……水谷忠士……801
君塚明光
ケネス・ラドル
石毛直道

彙　報　……865

国立民族学博物館研究報告寄稿要項　……868

国立民族学博物館研究報告執筆要領　……869

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 12 No. 3 **1987**

SASAKI, Komei — Predominance of Upland Rice among Swidden Crops in South East Asia 559

MATSUYAMA, Toshio — Hunting Strategy and Food Regulation among the Djinang in Arnhem Land 613

SEGAWA, Masahisa — *Xiè-dòu* and Village Alliances; Cases from the Five *Xiāngs* in the Western Part of the New Territories of Hong Kong 647

KATAKURA, Motoko — Muslims in a Non-Islamic Environment: With Focus on Arab Muslims in Canada 681

MORIYA, Takeshi — The Establishment of the Peabody Academy of Science 727

MIZUTANI, Tadashi
KIMIZUKA, Akimitsu
RUDDLE, Kenneth
ISHIGE, Naomichi — A Chemical Analysis of Fermented Fish Products and Discussion of Fermented Flavors in Asian Cuisines 801

彙　報

（昭和62年7月～昭和62年9月）

国際シンポジウム

◎「太平洋地域における孤立と発展」

第一部

日　時　昭和62年9月1日（火）・2日（水）

場　所　国立民族学博物館

第二部

日　時　昭和62年9月5日（土）・6日（日）

場　所　八王子・大学セミナーハウス

日　程

9月1日（火）

9:00　参加者登録

10:00　開会の辞

石川　榮吉（組織委員長・都立大）

V・N・ミスラ（デカン大）

〔問題提起〕

10:30「文化の孤立と発展―モデルとしての縄文時代」

J. ゴルソン（オーストラリア国立大）

1.　縄文文化とは

座長・井川　史子（マクギル大）

10:50「開かれた縄文文化」

佐々木高明（民博）

11:30「縄文文化の孤立と発展」

小林　達雄（国学院大）

12:10　討論

2.　縄文時代の文化接触と展開

座長・赤澤　威（東大）

14:00「日本列島の人口動態」

小山　修三（民博）

14:30「日本先史時代の漆工芸」

鈴木　公雄（慶応大）

15:00「小笠原諸島の考古学」

小田　静夫（東京都教育委員会）

15:45　討論

9月2日（水）

3.　日本考古学の組織と新しい技術

座長・小山　修三（民博）

10:00「脂質分析と考古学」

中野　益男（帯畜大）

10:30「プラン・オパール分析による農耕遺跡調査」

藤原　宏志（宮崎大）

11:00「日本における遺跡・遺物の調査と保護」

田中　琢（奈文研）

4.　縄文から弥生へ

座長・G. バーンズ（ケンブリッジ大）

14:00「縄文人と弥生人」

山口　敏（科博）

15:00「縄文文化と弥生文化」

佐原　眞（奈文研）

16:15　総合討論

海外における研究・調査・収集活動

氏　名	官　職	出　発	帰　国	行　先
藤井　龍彦	助教授（第四研究部）	62. 7. 1	62.11.29	ペルー
田邊　繁治	助教授（第二研究部）	62. 7. 2	62. 7.11	タイ
片倉　素子	教　授（第二研究部）	62. 7.10	62. 8.16	バーレーン，クウェート，アラブ首長国連邦
山本　紀夫	助教授（第四研究部）	62. 7.16	63. 3.15	ペルー，ボリビア，チリ，アルゼンチン，パラグアイ，エクアドル，コロンビア，アメリカ合衆国
庄司　博史	助　手（第三研究部）	62. 7.19	62. 9. 1	ハンガリー

八杉　佳穂	助　手（第四研究部）	62. 7.27	62. 9.30	メキシコ，グアテマラ，ベリーズ，ジャマイカ，プエルトリコ，ドミニカ共和国
瀬川　昌久	助　手（第一研究部）	62. 8. 3	62.10.17	中華人民共和国，香港
杉本　尚次	教　授（第五研究部）	62. 8.10	62. 8.27	カナダ
守屋　　毅	助教授（第一研究部）	62. 8.10	62. 8.27	カナダ
利光　有紀	助　手（第一研究部）	62. 8.17	62. 9.16	中華人民共和国
福井　勝義	助教授（第三研究部）	62. 8.22	62. 9.13	スウェーデン，ドイツ連邦共和国，連合王国
小川　　了	助教授（第三研究部）	62. 8.24	62. 9.28	ポルトガル
石毛　直道	教　授（第四研究部）	62. 8.28	62. 9. 8	ソビエト連邦
杉村　　棟	助教授（第二研究部）	62. 8.30	62. 9.12	トルコ，連合王国
佐々木高明	教　授（第二研究部）	62. 9. 4	62. 9.28	中華人民共和国
森田　恒之	助教授（第五研究部）	62. 9. 4	62. 9.19	オーストラリア
栗田　靖之	助教授（第二研究部）	62. 9. 6	62.10. 7	インド，ブータン王国
杉田　繁治	助教授（第五研究部）	62. 9.14	62. 9.20	アメリカ合衆国
吉本　　忍	助　手（第二研究部）	62. 9.14	62.10. 3	インドネシア
大塚　和義	助教授（第一研究部）	62. 9.15	62.10. 5	中華人民共和国
小山　修三	助教授（第四研究部）	62. 9.21	62.10.17	パキスタン
周　　達生	助教授（第一研究部）	62. 9.27	62.10.14	中華人民共和国
宮本　　勝	助教授（第二研究部）	62. 9.30	62.11.16	シンガポール，マレーシア，ブルネイ
和田　正平	助教授（第三研究部）	62. 9.30	63. 1.13	ケニア，タンザニア

来館者抄

7月2日　酒井　　浩（玉川大学附属教育博物館学芸員）
柿崎　博孝（玉川大学附属教育博物館学芸員）

7月8日　Mochtar Buchori（インドネシア，インドネシア科学院副院長）
前田　成文（京都大学東南アジア研究センター教授）

7月9日　ギデオン・S・ウエレ（ケニア，ナイロビ大学アフリカ研究所長）

7月10日　中国社会科学院訪日団一行
団長　劉　田　珍（社会科学院人事教育局副局長）
副団長　斉　克　琛（同　歴史研究所科研処副処長）
葛　幼　力（同　文学研究所人事処副処長）
汪　小　熙（同　機関党委宣伝処副処長）
楊　　晨（同　外事局総合処科員）
菊川　　健（放送教育開発センター教授）
川淵　明美（放送教育開発センター助手）

7月20日　Benjamin N. Colby（アメリカ合衆国，カリフォルニア大学教授）
鈴木　一正（国文学研究資料館整理閲覧部閲覧係長）

7月30日　中国，陝西省代表団一行

8月3日　ジュレビアンコ（ソビエト連邦，科学アカデミーシベリア支部歴史・言語・哲学研究所主任研究員）

8月4日　黄　光　男（台湾，台北市立美術館長）

8月15日　Philip Shen（香港，中文大学文学部長）

8月26日　中野　敏雄（川崎市市民ミュージアム準備事務室(仮称)主査）

8月27日　富松　　昇（宮崎県立美術館建設構想委員会委員長・元宮崎市助役）
黒木　淳吉（宮崎県立美術館建設構想委員会委員・宮崎県総合博物館長）
山本　一麿（宮崎県立美術館建設構想委員会委員・県教育次長）
土屋　公雄（宮崎県立美術館建設構想委員会事務局・宮崎県文化課）

9月5日　インドネシア博物館専門家一行
スラフマット・ディルマン（インドネシア，ジャカルタ特別市博物館美術館歴史局副局長）
O・A・シュービナ（ソビエト連邦，ユジノサハリンスク郷土博物館研究員）
内田　祐一（アイヌ民族博物館学芸員）

9月8日　Vadim F. Zaitzev（ソビエト連邦，科学アカデミー動物学研究所副所長・天王寺博マンモス館長）
Irena E. Kuzmina（ソビエト連邦，科学アカデミー動物学研究所，天王寺博マンモス館）
ガリーナ・A・ソローキナ（ソビエト連邦，科学アカデミー展示委員会主任メトジスト）

9月9日　Keith Thomson（ニュージーランド，マッセイ大学地理学教授）

9月10日　中国中共党史研究会訪日団一行
逄　先　知（中国中共党史研究会副会長，中共中央文献研究室教授）
王　　淇（中国中共党史研究会秘書長，中共中央党史研究室教授）
汪　裕　堯（中国中共党史研究会理事，中共中央文献研究室副教授）
傅　禄　永（中国社会科学院外事局アジア，アフリカ処通訳）

9月21日　B. D. A. Moeran（連合王国，ロンドン大学日本学科教授）

9月25日　中国陝西省榆林地区文管会一行
康　蘭　英（中国陝西省榆林地区文管会主任）
劉　彦　博（陝西省文物局博物館処幹部）
張　　智（陝西省文物局通訳）
大重　薫子（大阪市立美術館学芸員）

9月27日　三ケ月　章（東京大学名誉教授，法制審議会委員，日本学術振興会学術相談役）

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は，民族学（文化人類学）に関する論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等を掲載・発表することにより，民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は，次のとおりとする。
   (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織，運営に関与する者
   (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
   (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は，論文，資料・研究ノート，調査研究活動報告等のうち，いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお，この区分についての最終的な調整は，国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は，原則として論文及び資料・研究ノートを１段組，その他のものを２段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は，日本語，英語，フランス語，スペイン語，ロシア語，中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし，その他の言語を用いる場合は，編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字，記号，印刷方法等が必要な場合は，編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で，日本語を使用する場合は，原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし，その他の言語による論文の場合は，編集委員会に相談するものとする。なお，寄稿する原稿については，執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は，原則として制限しない。ただし，編集する場合は編集委員会の判断により，紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は，必ず清書（欧文の場合はタイプ）し，原稿の写し１部を添付するものとする。なお，図，表のスミ入れ，レタリングは，編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は，審査委員会において審査のうえ，採否を決定する。なお，原稿は，採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い，掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては，別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は，次のとおりとする。

〒565　大阪府吹田市千里　万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は，200字詰原稿用紙を使用し，横書きとする。
2. 原稿は，図，表を除き，原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は，原則として当用漢字，現代かなづかいを用いる。
4. 句読点，括弧，各種記号等は，原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号，月日及びその他の数字は，原則としてアラビア数字を用いる。なお，年号は，原則として西暦とする。
6. 図及び表は，一図，一表ごとに別紙に書き，本文とは別に一括して添付するものとする。なお，図，表ごとに通し番号（「図1」，「表1」等の要領により記入），図，表名及び説明並びに出典等を記し，本文原稿の欄外には，それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は，写りの明瞭なもので，手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り，図及び表の扱いに準じて通し番号，説明を付けたうえ，そう入箇所を指定するものとする。ただし，カラー写真は，原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は，カギ括弧を付け，著者名，文献刊行年次，引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

   [柳田 1942: 67–69]

   [Leach 1961: 123]

   [柳田 1942: 67–69, 1944: 20–22; Leach 1961: 123]

   ただし，同年次刊行物の場合は，アルファベット順により，下記のように記載するものとする。

   [柳田 1942a: 20–22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は，一つ一つ別紙に記し，通し番号を付ける。なお，本文中に脚注をそう入する箇所には，脚注の当該番号を記入し，別紙の脚注には，本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は，すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

    (1) 文献の配列は，著者名のアルファベット順とすること。

    (2) 文献の記載は，著者名，年号，論題（タイトル），誌名，巻，号，出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は，イタリック体にするため，原稿には下線を引くこと。また，ローマ字人名は，スモール・キャピタルとするため，二重下線を引き，日本文の場合は，論題にカギ括弧，雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は，原則としてアラビア数字を用いること。

    (例)

    論文の場合 (1)

    石田英一郎

    1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311–330。

    Bohannan, P.

    1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357–372.

    論文の場合 (2)

    杉浦 健一

    1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店，pp. 117–143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23–63.

単行本の場合

泉　靖一

1966『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974『シャーマニズム――古代的エクスタシー技術――』堀一郎訳　冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告　12巻3号

〔監　　修〕
梅　棹　忠　夫
〔編集委員長〕
竹　村　卓　二
〔編集委員〕
君　島　久　子
ケネス・ラドル
崎　山　　理
須　藤　健　一
田　中　雅　一
田　邊　繁　治
垂　水　　稔
中　山　和　芳
長　野　泰　彦
福　井　勝　義
宮　本　　勝
山　本　紀　夫
和　田　正　平

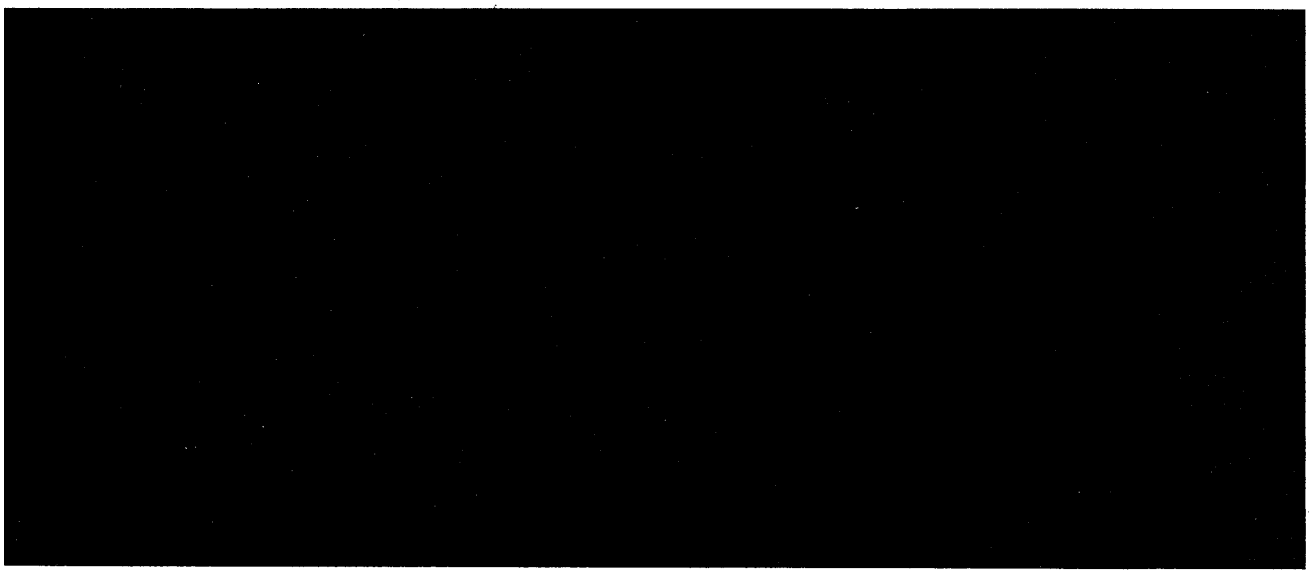
昭和63年2月15日　発行　非売品

国立民族学博物館研究報告　12巻3号

編集・発行　国立民族学博物館
〒565　吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印　　刷　中西印刷株式会社
〒602　京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.12 no.3
1987



SASAKI, Komei	Predominance of Upland Rice among Swidden Crops in South East Asia
MATSUYAMA, Toshio	Hunting Strategy and Food Regulation among the Djinang in Arnhem Land
SEGAWA, Masahisa	*Xiè-dòu* and Village Alliances; Cases from the Five *Xiāngs* in the Western Part of the New Territories of Hong Kong
KATAKURA, Motoko	Muslims In a Non-Islamic Environment: With Focus on Arab Muslims in Canada
MORIYA, Takeshi	The Establishment of the Peabody Academy of Science
MIZUTANI, Tadashi KIMIZUKA, Akimitsu RUDDLE, Kenneth ISHIGE, Naomichi	A Chemical Analysis of Fermented Fish Products and Discussion of Fermented Flavors in Asian Cuisines

ISSN 0385-180X

National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151